下関市立大学インフラ長寿命化計画（個別施設）【概要版】

1. 長寿命化計画の背景目的

◆ 背景・目的

教育・研究活動の重要な役割を担う大学施設において、老朽化問題が課題となっている昨今の現状を踏まえ、本学施設の維持管理及び長寿命化における中長期的な具体的方針を定めるため、本計画を策定する。

◆ 計画期間

2021年～2060年（40年間）とする。

◆ 対象施設

本学所有の全17施設のうち、現状で撤去予定となっている建物を除いた施設で、延べ床面積が約200㎡以上となる施設を本計画の対象施設とした。右表に本計画対象の10施設を示す。

表1 対象施設一覧

番号	施設名	築年数（年）	主要構造	延床面積（㎡）
1	A講義棟	1983	RC	4,257.72
2	学友会館	1999	RC	2,323.17
3	学術センター	1990	RC	4,183.67
4	B講義棟	1991	RC	3,615.67
5	厚生会館	1992	RC	2,208.50
6	体育館	2006	RC	3,284.92
7	本館	2012	RC	6,080.11
8	武道場	2012	RC	237.03
9	集密書庫	2012	軽量鉄骨	339.81
16	A棟電気室	2006	RC	23.71

2. 施設の目指すべき姿

①安心・安全な教育・研究環境を提供するキャンパスづくり

②快適で高度化・多様化に対応した機能を持つキャンパスづくり

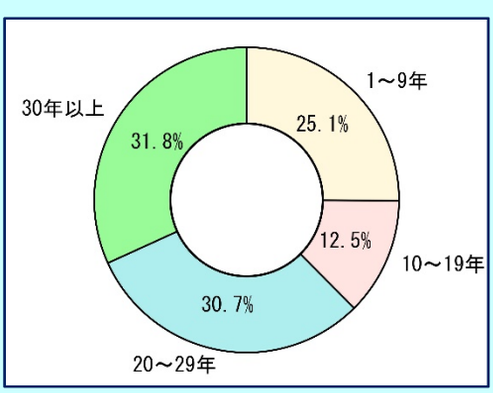
③地元下関市に開かれたキャンパスづくり

図1 キャンパス内の状況

3. 施設の実態

◆ 経年別保有面積

対象施設の総延床面積は約27,000㎡であり、今後20年間で総延床面積の約60%にあたる約16,500㎡が法定耐用年数を迎えることになり、今後の施設老朽化による問題の発生が懸念されるところである。



築年数[年]	延床面積[㎡]
30年以上	8441.39
20～29年	8147.34
10～19年	3308.63
1～9年	6656.95

図2 経年別保有面積とその割合

◆ 施設関連費用

本学の施設関連費用は、全額自己資金で賄われている状況である。各年度の費用は、概ね8年間の平均額である約1億円前後で毎年推移している。

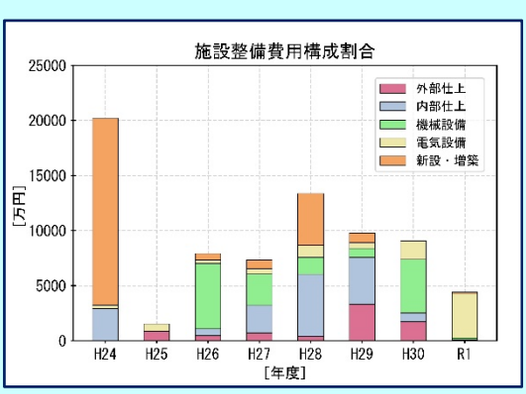


図3 施設関連費用の推移と内訳

◆　長寿命化の効果

従来型から長寿命化型へ転換を図ることにより、達成できる長寿命化の効果を検証した。試算をした結果、従来型保全計画の総コストは約127.8億円、年平均は約3.2億円となり、40年間で約51.0億円のコスト縮減額が見込まれ、約40%(=51.0億円/127.8億円×100)のコスト縮減率となる。

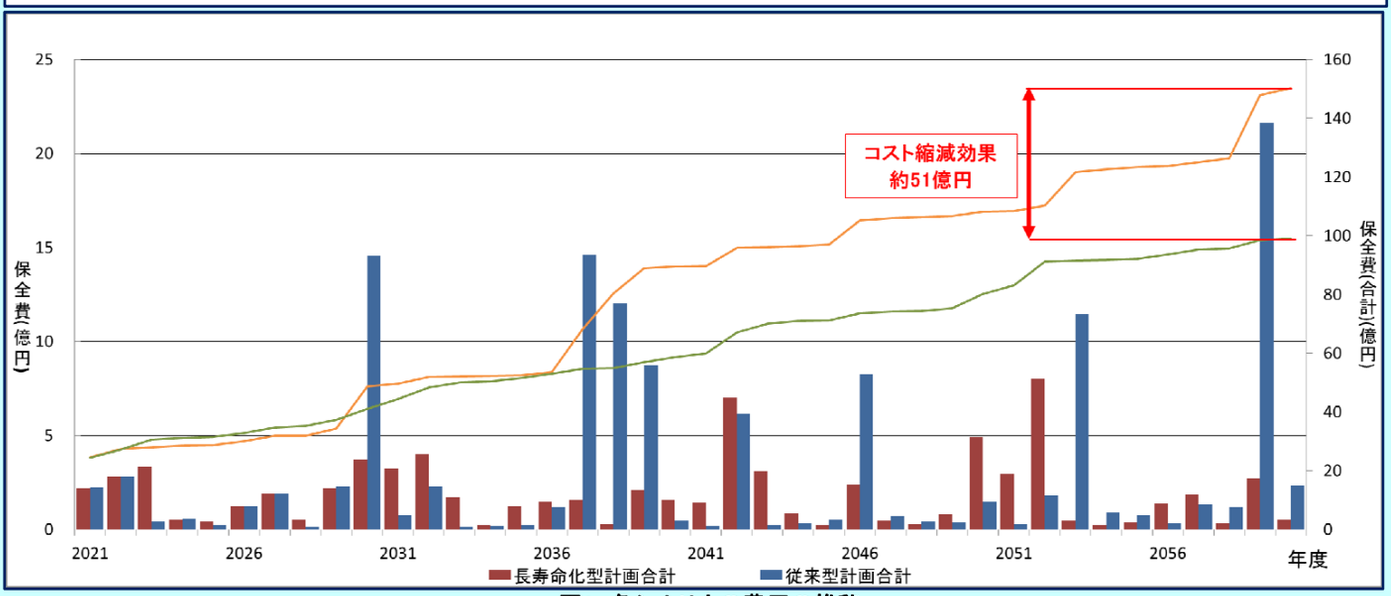


図8　各シナリオの費用の推移

7.　長寿命化計画の継続的運用方針

◆　情報基盤の整備と活用

施設の維持管理を効果的・効率的に進めていくために、施設情報の記録シートを作成し、各情報をデータベース化し情報を蓄積していくこととする。

表10　記録内容

記録シート名	記録内容
【施設概要】	改修等を行った 際は、施設情報を更新する。また、必要に応じて項目の追加を行っていく。
【増改築履歴】	施設の増改築を行った際は、工事の情報を記録していく。
【点検履歴】	各種点検を実施した際は、点検の記録を行っていく。その際に、新たな劣化・損傷を発見した場合は、劣化の情報を記録していく。
【更新履歴】	更新修繕を実施した際は、工事の情報を記録していく。

◆　推進体制等の整備

長寿命化推進体制は、大きく分けて「計画推進体制」と「施設整備推進体制」の2つからなり、両体制を総務グループが統括する構図とする（図9）。

◆　フォローアップ

本計画は、計画策定時点（令和3年3月）での本学の現状を踏まえて策定したインフラ長寿命化計画である。今後の施設の長寿命化計画の進捗状況や、本学及び大学施設を取り巻く社会情勢や環境の変化により3年ごとに計画内容の見直しを行っていくものとする。

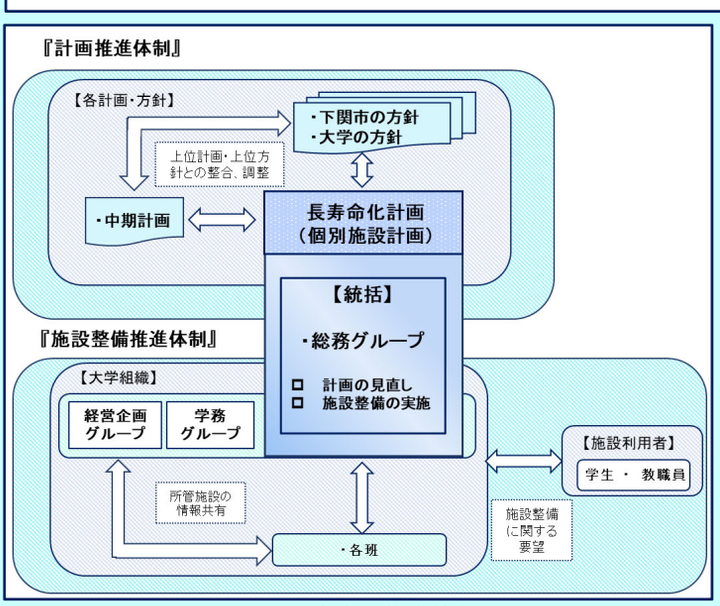


図9　長寿命化推進体制

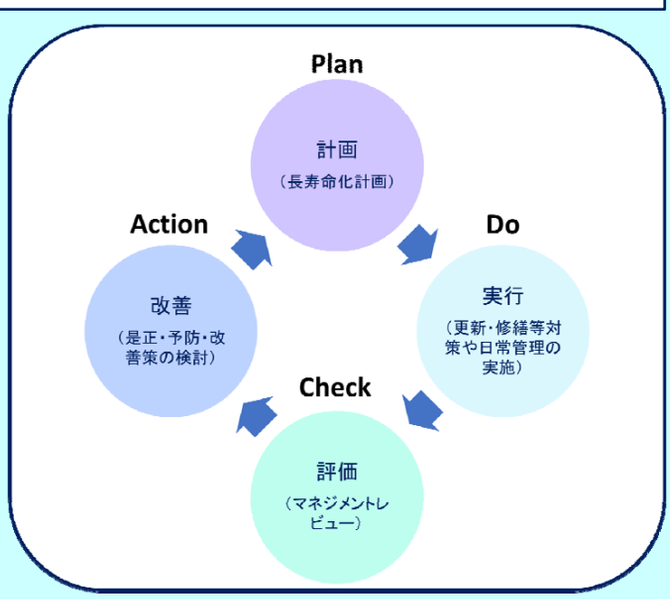


図10　PDCAサイクル